Spiritualism News Letter
スピリチュアリズム・ニューズレター
1998
第2号
7月1日発行

発行／スピリチュアリズム・サークル 心の道場　発行人／小池里予　〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1　TEL 0532-41-0537　FAX 0532-41-8257
ホームページアドレス　http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/

ニューエイジも新・新宗教もスピリチュアリズムを超えるものではありません

シリーズ1 スピリチュアリズムから見たニューエイジ

スピリチュアリズムは人類史上最大のプロジェクト

スピリチュアリズムは高級霊団の計画のもとに進められている地上人類救済のための一大事業です。このスピリチュアリズムにおける人類救済計画は、これまでの人類史上の最大規模のプロジェクトです。この想像を絶するような大組織が、今、現実に私達の背後にあって日々働きかけているということを忘れてはならないでしょう。この働きかけは地球上のいかなる政治的力・経済的力よりも大きく、地球の将来に対して決定的な影響をもっています。シルバーバーチによれば、何十何百億という霊界人が一糸乱れることなく組織的にムダなく活動しています。そしてその頂点に立っているのがイエスなのです。

では、地球人類救済プロジェクトの具体的な内容とは一体何でしょうか？それは、地上に霊的真理をもたらして地上人類を霊的無知から解放することなのです。地上人類の悲惨さは、すべて霊的真理を知らないところに起因します。さて高級霊が霊的真理を地上にもたらす手段として用いてきたのが霊界通信でした。そしてこれまでイギリス、アメリカを代表とする欧米キリスト教圏に真っ先に霊的真理が降ろされました。そして現在では、人種・民族・地域の別なく、時のきた人々に次々と霊的真理が与えられるようになっています。この霊的真理によって霊的事実に目覚め、霊的人生を歩む人間が一人また一人と増えることによって、将来、地球上に地上天国ができて行くことになるのです。以上が、高級霊によって現実に進められているスピリチュアリズムの概観です。

スピリチュアリズムとニューエイジは本質的に同じもの

ここ20～30年間、アメリカを中心としてニューエイジやチャネリングがブームを巻き起こしてきました。そして多くの人々が精神世界に目覚めました。こうした動きは、まさに霊界の高級霊の救済活動が地上に反映したものなのです。19～20世紀にヨーロッパを中心として一世を風靡した近代心霊研究の動きが、時を隔て今アメリカにおいて再開されました。

ニューエイジに係わる人々の中には、スピリチュアリズムは一時代昔のものであるかのように考える人がいます。スピリチュアリズムの時代は去って、これからはニューエイジの時代だと言うのです。しかしこうした発言は、霊界の大プロジェクトという動きに対する無知からでたものです。これまで述べ

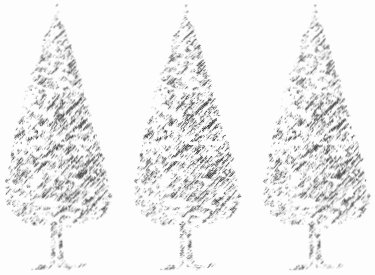
てきましたように、霊界はイエスを中心として全ての高級霊が一丸となって地上救済のために働きかけています。このように地球を取り巻く霊界全体の意志が一つとなって進められているのが、スピリチュアリズムなのです。それが今、アメリカを中心としてニューエイジという名前で展開している、ということなのです。従ってニューエイジに係わる人達が、スピリチュアリズムとニューエイジを別物と考えるとするなら、それはスピリチュアリズムばかりでなく、ニューエイジ自体についてもその本質が何も分かっていない、ということなのです。自分のしていることの本当の意味について何も知らない、ということなのです。

ニューエイジャーの偏見と偏狭な理解は、ジョン・クリモの『チャネリング』（ボイス社）にも見られます。この本はチャネリングについて広汎で詳細な説明をしており、その点では優れたものと言えます。しかし残念なことに、著者のクリモ自身が霊界での大プロジェクトについて全く無知なのです。そのため霊界通信や霊媒現象を、霊界の導きという立体的観点からとらえることができていません。スピリチュアリズムをチャネリングの先行として挙げるのみで、通信内容の重要度からこれらを位置付けするということができていません。通信内容という肝心な点を無視した霊界通信の概観にすぎません。霊界通信は単に横並べにしたらよいというものではありません。通信の中身こそその生命なのです。そこにこそ通信を送る霊界の意図が反映しているからなのです。

ニューエイジの中心はチャネリングであるべき

再度述べますが、スピリチュアリズムもニューエイジも霊界の高級霊によって人類救済のために起こされたものであり、本質的には全く同じものなのです。ただ名称が違うということに過ぎません。霊界から見たらスピリチュアリズムもニューエイジも同じなのです。ただ、現在のニューエイジは広汎な分野にわたる精神革命的な意味合いを持っています。この多分野（チャネリング、ニューサイエンス、トランスパーソナル心理学、エコロジー思想、ニューエイジ形而上学、ホリスティック医学etc.）にわたる底辺の広さゆえに、それが最も優れたもののように考える人もいます。しかしこれらの動きをつくりだした霊界の高級霊の立場から考えてみれば、最終的な目標は霊的真理にあることは明白です。このことは“精神覚醒運動”であるニューエイジの中で、最も中心的立場に立たねばならないのがチャネリングであるということなのです。チャネリングこそ霊界からの意志をストレートに伝えることができる道だからです。科学や心理学を通じての霊界へのアプローチも間接的には大きな意味があるでしょうが、霊界からの直接的な影響という点では、何と言っても霊界通信（チャネリング）が重要な役割を担っているのです。

地上人類の発展段階として、物質的レベル→精神的レベル→霊的レベルの三段階があるとシルバーバーチは言っています。人類は総体として今、物質的レベル→精神的レベルへの過程にありますが、その中でニューエイジは、精神的レベル→霊的レベルへという一歩進んだ過程を歩んでいます。そしてそのニューエイジの中では、チャネリングのみが純粋に霊的分野に属するものなのです。ニューエイジの中で、アジアの思想や宗教に対する関心が高まったとしても、それらはどこまでも霊的レベルへの中間点に過ぎません。禅もタオもヨーガもニューサイエンスも、霊的と言うにはあまりにもレベルが低いのです。ニューエイジは、チャネリングを通じて送られてくる霊的真理を中心として展開して行くべきなのです。常にチャネリングがニューエイジの指針となり指導理念となった時に、ニューエイジは全体として歴史的な使命を果たすことができるようになるでしょう。



チャネリングの多くの問題点

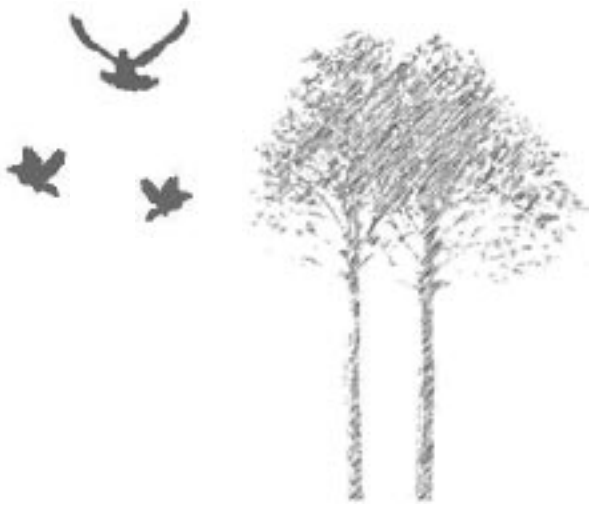
しかし現時点のチャネリングを見る限り、あまりにも多くの問題点を抱えています。その問題点のゆえに、チャネリングはニューエイジの中で中心的な立場を確立することができずにいます。その問題の一つが、霊界通信（チャネリング）に対する厳格な選別がなされていないということです。価値のある霊界通信と全く意味のない霊界通信が、玉石混交の状態のまま置かれているということです。多くの人々は霊的現象という不思議な出来事に興味が奪われるのみで、肝心な霊界の教えを指針として霊的人生を歩み出す方法に向かっていないのです。

私達はすでに、霊界通信にはピンからキリまであるということを知っています。その原因として、通信を送る側のソースの大半が低級霊であるということがあります。また、低級霊といえども地上人の心を見抜きこれに合わせた答えをしたり、高級霊のまねをして部分的な霊的真理を語ることができるということがあります。また霊媒者（チャネラー）が無意識のうちに自分の潜在意識を語るということや、霊媒者自身が、自分の潜在意識の内容を霊からの通信と混同することがあります。さらには通信を受ける霊媒の知性や能力や人格によって通信内容が脚色されることなどがあります。このように、霊媒現象には様々な複雑な問題が絡み合っています。これらの問題点を全てクリヤーした時に、はじめて優れた霊界通信と言えるのです。霊界通信には常にこうした観点から徹底したチェックがなされなければなりません。そうしたチェックをへて、はじめて人類は真実の霊的真理を得ることができるようになるのです。

スピリチュアリズムのこれまでの研究では、本当に意味のある霊界通信は全体のわずか５％に過ぎないとも言われています。アメリカでヒットしたチャネリングの中には、明らかに低級霊によるものとしか言いようのないものが多くあります。アメリカのチャネリングブームでの一番の問題点は、霊界通信への厳しいチェックがなされていない、ということなのです。バシャールなどは内容から判断すれば明らかに低級霊に属する霊と考えるべきなのです。現代のチャネリングは、日本の拝み信仰・奇跡信仰のレベルと大差ありません。その多くが低級霊に翻弄され、格好のおもちゃにされています。とは言っても、チャネリングの中にも『セスシリーズ』や『ラザリス』など、スピリチュアリズムの高級霊訓に匹敵するものもあります。今後ニューエイジは、こうした優れた霊訓を道しるべとして進んで行くべきなのです。

＊チャネリングのＰＲに多大な貢献をなしたのが女優シャーリー・マクレーンでした。あるチャネラーが語った彼女の前世が自叙伝風にまとめられベストセラーになりました。しかし後に、その前世の話が全てチャネラーの作り話であったことが暴露されました。シャーリー・マクレーンはそれについて、英国の心霊誌サイキックニューズの中で、「人々を惑わせ大変な迷惑をかけてすまなかった。二度とこういうことはしたくない」と反省の弁を述べています。しかし一旦マスメディアに載せられた前世譚は、それが作り話であっても、現在でもさも事実であるがごとくの印象を人々に与え続けています。当の本人シャーリーにとってはいたたまれないことでしょう。

さらにチャネリングの問題点としては、霊界通信を受ける側の姿勢があります。霊界通信の中の一部、特に自分にとって都合の良い点や耳ざわりの良い部分だけを受け入れるという傾向が見られます。しかしそれは、せっかくの霊界の教えを歪めることになります。霊界からの優れた通信も、地上人生の正しい指針とはなり得ないことになります。

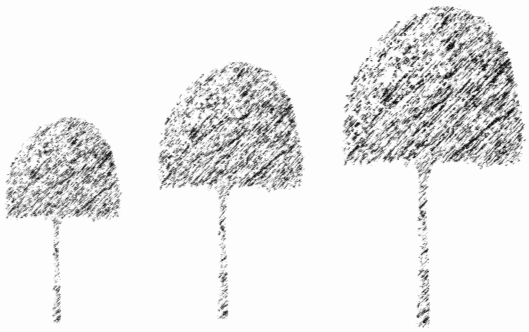


ニューエイジでよく使われる言葉に「自己を癒す」とか「自己を許す」といったものがあります。しかし霊界において、自己愛の大切さを主張する高級霊は一人もいません。自分を犠牲にすること、自分より人のために働くこと、自分を忘れて人に尽くすことが高級霊の教えです。これこそが私達の地上での努力目標であるべきです。自己愛ではなく「利他愛」こそ神のつくられた摂理であり、宇宙の存在法則なのです。自己を愛するとか自己を許すということは、これまでの地上生活で心を歪め正常な利他愛の努力のできなくなってしまった、言わば霊的障害者に対するリハビリ的方法を述べたものと考えるべきなのです。従来のキリスト教の不条理な道徳（極端な禁欲主義など）に反対することはよいとしても、霊的法則の本質をねじ曲げて、自分達にとって都合のいいものだけを取り上げることは明らかに間違っています。利他愛の実践に徹してさえいれば、わざわざ自己を癒し許すといったことを主張しなくともよいのです。利他愛の実践は、結果的には自分を最も大切にし愛することになるのです。自己愛を先に掲げることは本末転倒した考え方です。これと同じく本末転倒した考え方に「ワクワクした生き方」があります。地上人生において魂の成長をなすためには苦しみ・困難が必要であることを考えれば、こうした発想を前面に押し出すことが間違っていることは明らかです。

このように霊的真理を地上の人間サイドから編集し直すことは、霊界通信の本質を歪めることになります。自分に心地よい言葉から人間の魂の成長があるのではありません。霊的摂理という厳然たる事実の中でしか、人間の魂の成長はなされないのです。ニューエイジ全般に言えることは、苦しみの意義に対する意識の欠如、禁欲に対する嫌悪など、ヒューマニズム的発想による霊的真理からの逸脱的傾向があるということです。霊的摂理の厳しい面を捨てて、霊的真理の一部分を人間中心的なところから取り上げるといった傾向が強いのです。

またニューエイジがセミナーやワークショップを頻繁に開いて、これを普及のための手段としていることにも問題があります。何よりもまずセミナー自体が、この世的なお金儲けの手段になっているということです。このため多くの醜い争いを引き起こしていることは周知の通りです。これでは新興宗教の金権体質と全く変わりません。

またセミナーによって人の魂が変えられると考えているとしたら、霊的真理に関する本質的な間違いを犯していることになります。人間の魂の成長は、セミナーやワークショップなどの一時的な感動や興奮、異常心理によってなされるものではありません。セミナーの参加者は、その時は普段では体験したことのない新しい世界に触れるため、自分が変わったかのような錯覚に陥ります。が、セミナーが終わり一ヶ月もすれば、以前と何も変わっていなかった自分に気づくはずです。これはある種の心理体験であって、霊的体験ではありません。困難に遭遇し、自己を捨てざるを得ないような体験を通じて人間は変わるものです。お金を払って短期間に自分の魂が高められるとしたら、そんな美味い話はありません。心理的な刺激を体験することと、魂が成長することとは全く違います。この違いが分からないと、不思議な体験をしたというだけで自分が高まったと錯覚してしまいます。オウム真理教の多くの信者が、超常体験を自己変化と錯覚したのと同じことになってしまうのです。超常体験と霊的体験とは全く別物です。霊的体験とは霊的成長につながるもので、霊的努力の継続や、困難を甘受する努力を通じて少しずつなされて行くものなのです。



科学者による心霊研究の意義

このように現代のチャネリングには様々な問題がありますが、先進国において霊的現象に興味をもつ人々が増えることは、広い目で見れば良いことです。こうした動きは、人類が霊的世界に対して柔軟性をもち始めたことを意味します。唯物的・物質主義的傾向が強い現代人の中に多くの霊的現象が引き起こされ、科学者の目がこうした現象に引き付けられるようになります。それはやがて、科学者による死後世界の研究へと進んで行くようになります。高級霊界の計画の一つとして、科学者を心霊現象の研究に向かわせることがあります。これまでの歴史にもそうした動きが見られました。それが私達がよく知っている、クルックスやリシェー達の心霊研究だったのです。そしてヨーロッパを中心とした近代心霊研究はそれなりの成果を収め、霊界通信という新しい道を開きました。

同じような動きがアメリカを中心に20年ほど前から起こってきました。レイモンド・ムーディーによる“臨死体験”の研究がきっかけとなり、多くの科学者がこの研究に取り組むようになりました。臨死体験は心霊現象としては極めて初歩的なものにすぎませんが、科学者が従来の科学を向こうに回して、こうした研究に取り組むようになったのです。臨死体験の研究と並んで最も定評のあるのが、イアン・スティーヴンソンによる“再生”についての研究です。彼は極めて厳格な面接調査方法によって、再生と思われるケースの中から、さらに一握りの本物を絞り込んで行きます。彼の研究方法は、完璧なフィールドワークに支えられた優れたものです。

＊欧米ではこのスティーヴンソン博士とは別の方法で再生についての研究が進められています。その方法とは“退行催眠”で、今日、日本でも一部のセラピストによって盛んに行われています。しかし、これについてはあまりにも多くの問題点があります。結論を言えば、退行催眠によって前世の事実を知ることはできない、ということです。この方法によって明らかにされる前世の正体は、単なる潜在意識のフィクションであったり、低級霊のからかいによる霊的ビジョンに過ぎないことが多いのです。これについては今後のニューズレターで詳しく取り上げることにします。

現時点での臨死体験に関する研究は、肯定派、否定派が相譲らず平行線をたどっているというのが実情です。否定派は、臨死体験者が語るイメージは脳の酸欠状態が引き起こす幻想・幻覚に過ぎないと主張します。また薬物や麻酔によっても人間は幻想・幻覚を見るが、臨死体験者の語る世界はそれと同じであると言うのです（これを脳内現象説と言います）。しかしそれに対して肯定派は、脳の酸欠状態や薬物によってみる幻覚と、臨死体験者が語るイメージは全く異質のものである事実を挙げて反論します。また臨死体験者が自分の肉体を第三者的に眺めたり、到底知るはずのない離れた所にいる他人の様子を述べるなどの事実をあげ、臨死体験とは、霊肉の分離（幽体離脱）が起こっていると主張します。客観的な状況としては、徐々に肯定派（幽体離脱派）が優勢になりつつあると言えるでしょう。

こうしたアメリカを中心とする科学者の心霊研究は、一般の人々が安易に霊的現象に走ることに対する、よい意味での牽制の役割を果たします。霊的現象に対する正しい姿勢・見識を作らせることになります。また霊的現象には、低級霊によるものと高級霊によるものがあることを気づかせることになります。その意味で、心の目の開けた科学者が今後次々と現れ、チャネリング現象に科学的メスを入れるようになって欲しいと思います。それによって本物の霊界通信と偽物が選別されて行くようになるのです。

次号では、スピリチュアリズムから見た現代の新・新宗教（ＧＬＡ、幸福の科学、統一協会etc.）について述べることにします。

魂の成長は地上の苦難をプラス思考で乗り越えることによってなされます。

人間が地上で生活する目的は、「魂を成長させる」この一言に尽きます。高級霊が苦労しながら地上界に働きかけ、霊的真理を地上にもたらす目的は、地上人の魂の成長を促すこと以外の何物でもありません。優れた霊界通信・霊訓には、真理ばかりでなく、霊的人生を歩むための多くの実践的内容が述べられています。霊的真理は実践してこそ価値を持ちます。霊的真理を知ったというだけでは、スピリチュアリストとは言えないでしょう。

では、どうしたら私達は地上で魂の成長をなすことができるのでしょうか。何をしたら地上人生の間に霊性を高めることができるのでしょうか。高級霊訓が示す霊的人生のための実践とは一体何でしょうか。『シルバーバーチの霊訓』『インペレーターの霊訓（モーゼスの霊訓）』アラン・カルデックの『霊の書』の三大霊訓において示される霊的人生の実践的内容は、大きく次のようにまとめられるでしょう。

① **霊優位のための自己コントロール**
（霊主肉従の努力）

② **苦しみへの正しい対処**

③ **利他愛の実践**（人を正しく愛する）

④ **霊的世界とのストレートな交わり**（瞑想・祈り）

前号では、この中の①の霊優位のための自己コントロールについて説明しました。今回は、②苦しみへの正しい対処について見てみましょう。

スピリチュアリズムの教え—苦しみ・困難は必要不可欠なもの

スピリチュアリズムの真理を知った私達であっても、苦しみは何とか避けたいと思うものです。苦しみを避けたいと思うのは地上の人間の本性ともいうべきもので、それはごく当然の在り方でしょう。一般の人々は、苦しみや困難がないことが幸せであり、苦難があることは不幸であると考えています。苦しみは人生から幸せを奪い取る敵であり、何とかそれを避けたいと願っています。多くの人々が宗教に係わりを持っていますが、その人達が求めるものは、苦しみのない幸せな人生です。シャカの仏法も、生・老・病・死という避けられない人生苦を、いかに克服すべきかというところから出発しています。このように苦しみは、私達の地上人生の中で大きな部分を占めています。

ところが高級霊訓では、苦しみに対して地上人とは全く違った見方をしています。違っているどころか180度も反対のことを言っています。私達地上人の常識を根本から覆すようなことを述べているのです。シルバーバーチはしばしば、「苦しみを避けてはいけません。ありがたいものとして受け入れなさい」と言っています。

霊訓を読むとき私達はよく、地上人と霊界人の視野の違いの大きさに驚かされることがあります。例えばその一つが死についての考え方です。私達にとって愛する人との死別は、悲しみの絶頂とも言うべきものです。が、それに対して霊界の人々は、「どうして死をそんなに悲しむ必要があるのですか。どうして死をそんなに悪く考えるのですか。死は肉体という牢獄から魂を解放してくれる喜ばしい時なの

です」というように、想像もつかないような返事をするのです。そして同じように、私達が地上で味わう苦しみ・困難についても、ありがたいものだと言うのです。この世の多くの宗教は、苦しみを取り除くことを売り物にしていますが、それに比べて、スピリチュアリズムは何と違っていることでしょうか。

高級霊の発言や教えは、常に霊界という永遠的世界の観点からなされます。私達地上人が幼児であるなら、霊界の高級霊は無条件に親であり大人なのです。その視野の広さ、全体を見通した判断力は私達とは比べものになりません。そのような高級霊が、苦しみは魂の成長に不可欠な条件であると言っているのです。

地上は苦難の世界——苦しみは避けられない地上人の宿命

苦しみの意義を正しく理解するためには、非物質世界である霊界と、物質世界である地上世界との違いをしっかりと知る必要があります。霊界には私達が体験するような地上的苦しみはありません。死んで霊界に行けば、今地上で抱えている一切の苦しみはなくなります。それに対して地上生活では苦しみはつきものです。しかし、その地上ならではの苦しみがあるために、地上人生は意義を持っているのです。

地上という物質世界が霊的世界と大きく異なるのは、魂の成長レベルが様々な人々が同じ平面上に生きているということ、そして全てにわたって物質的な力の論理が支配しているということです。当然、利己性がこの世の人間世界を支配するようになっています。利己性の強い者ほど、この世では成功を収めやすくなっています。利己性の強い人間と付き合うと、それだけで様々な苦痛を味わいます。さらにそうした人間に支配されるということになれば、その苦しみはいっそう大きなものになるでしょう。このように地上では、人間関係において必ず苦しみや摩擦が生じるようになっています。

こうした人間関係の中で心を乱さずに生きるためには、たとえ相手の人格が足りないとしても、それを霊的視点から眺め下ろして、哀れさを感じるほどの心境を持つことが必要となります。相手を高くて広い心から見ることができない限り、その人に対する苛立ちや批判・非難の思いを克服することはできません。

また対人関係ばかりでなく、自分という一個人を見ても、肉体があるがゆえの様々な苦しみを持つようになっています。肉体の力はあまりにも強く、すぐに私達の心（魂）を肉主霊従の状態へ引きずり堕とします。自分自身さえまともにコントロールできません。少しでも清らかな思いを持とうとするだけで、猛烈な内面葛藤が起こってきます。本能的方向・物質的方向に流されるのは楽しく、安易です。そしてとても安定性があります。これを乗り越えるのには大変な霊的・内的な努力が要求されます。エネルギーを振り絞るような“霊的闘い”をしなければなりません。時には自らを禁欲的方向に押し出すことも必要となります。

さらに地上の苦難について考える時には、神のつくられた世界が“因果律”ならびに“利他愛”という神的摂理によって支配されている事実を忘れてはなりません。利己的行為や思考は、被造世界・全宇宙の摂理状況に合致しないため、そのズレた分は償いという形で再現されることになります。自らつくった霊的摂理とのズレは、それを償うために、自らに重い足かせをはめるような状態となって返ってきます。重い荷を背負って階段を上るような苦しみが必ず生じてきます。しかしその苦しみを正しく受け止め、前向きに努力しようとする時、結果的に、より高い世界を目指す意志を強固にすることになるのです。この意味で、償いの道は魂の成長の道と言えます。

地上の苦難に対する二通りの姿勢

神のつくった摂理のため、地上にいる限り何らかの苦しみ・困難は生じてくるものです。何も苦しみのないように見える人でも、その人なりの苦しみは必ず持っています。地上にいる人で、苦しみから解放されている人はいません。苦難は私達地上の人間にとって宿命であり、逃れることができないものなのです。ゆえに私達は、苦しみや困難のない人生や将来を考えたり期待してはなりません。もしそうした将来を期待しているとするなら、スピリチュアリズムの教えからズレた考え方です。これからも苦難はやってくると覚悟しておくべきでしょう。

私達の人生には愛する人との死別は必ず訪れます。不治の病や事故のために一生入院するようなことになるかも知れません。また家族の看病のために余生の大半を費やすようなことになるかも知れません。
会社が倒産したり、リストラの対象になって失業するような事態が生じるかも分かりません。さらには子供の非行や犯罪といった事件が持ち上がったり、家庭内で人間不和の渦に巻き込まれ、非難・中傷の的になるような辛い目にあうかも知れません。職場において誤解から嫌われ、居場所がないような日々を過ごすようになるかも分かりません。

このように地上にいる以上苦難は避けられないものですが、それに対する心がまえ・考え方に二つの方向性があります。一つはそれを善いものとして受け止めることです。自分の成長にとって必要なもの、あるいは過去に自分が犯した摂理違反（利己的生き方）に対する償いとして、プラス的に考えることです。もう一つがマイナス的な受け止め方です。不平不満の思いを持ってイヤイヤ受けて行くものです。しかし、そうしたマイナス思考の歩みでは、せっかくの魂の向上のチャンスを失うことになります。苦しみ・困難によって心がひねくれたり、神や他人への不信感だけを募らせたり、利己的な自分なりの殻の中に閉じこもってしまうことになりかねません。しかし、現実にはこうした人々が大半なのかも知れません。

シルバーバーチのような高級霊が苦しみの意義を強調しているのは、霊的真理を知って、苦しみに対して正しい対処をして欲しいと願ってのことです。霊的真理があって、はじめて苦しみの意義が理解できます。そして苦しみや困難を高いところから見下ろすことができるようになります。これが霊的真理を知ったスピリチュアリストと、霊的真理を何も知らない人との違いでしょう。霊的真理を活用して現実の人生を考えてこそ、真理を知った意味があるのです。

霊訓の示す苦難への心がまえ

現実に苦しみ・困難に遭遇した時は、誰もが視野が狭くなり、苦しみだけに心が占められるようになります。しかし、霊的真理を知っていることの真価の発揮のしどころは、まさにそこではないでしょうか。死後の世界があること、この世での名誉や名声や他人の評価などはどちらでもよいことを思い出すのです。裸で生まれ裸であの世に帰るのだから、この世の全てを捨ててもよいのだと、思い切って心を整理するのです。苦難に直面した時こそ、自分をひたすら真理に従わせる生き方が必要とされます。私達に勇気を与え、心の持ち方を安定させてくれる霊的真理にしがみつくのです。挫けそうになる弱い心を真理で絶えず立て直して、苦しみに立ち向かって行くのです。

苦難の最中にある時は、紙に書き出した一つのシルバーバーチの言葉を、一日に何十回となく取り出して、心を整理するといったことが必要です。誰もいないビルの屋上に行って、一つの霊的真理を手掛かりに、自分の人生を霊的視点から眺めることが必要です。窮地に立たされた時は多くの真理を読むことはできなくなります。たった一言の霊的真理にしがみつくことが最上の方法になるものです。

〔信じて頑張るのです。頑張り抜くのです。真実であると信じるものにしがみつき通すのです
〈シルバーバーチの霊訓・2〉〕

霊的真理実践の最大の障害—勇気と謙虚さの欠如

繰り返しますが、苦難の中に立たされた時には、霊的真理にしがみついて乗り越えて行くことが必要です。そのための十分な真理も、すでに私達は与えられています。しかし残念ながら現実には、霊訓を生かしているとは言えないような例が多いのではないでしょうか。その最大の原因は“勇気と謙虚さ”の欠如にあるようです。

せっかく霊的真理を手にしても、それを霊的武器として生かさないのなら宝の持ち腐れです。真理を活用するもしないも私達次第なのです。そして真理を生かすことなく苦しみから逃げたり先送りした分は、いつか別の苦しみを通じて償わなければならないのです。この世のものについ頼りたくなるのは人情ですが、そういう時こそ、霊的真理にしがみついて乗り越えなければなりません。状況によっては、自分が今持っている富・財産や仕事、そしてこれまで作ってきた名声や地位や人間関係も、すべて捨て去るほどの思い切りのよさが必要でしょう。そして人から馬鹿にされたり悪人として見られることも、平気でやり過ごせるような心の姿勢が必要となるでしょう。神と霊界の人々は皆、真実を分かってくださることを支えとして、心を治めて行かねばならないでしょう。

それを実行する勇気がもてない理由は、霊的世界の事実が実感できない、実感度が乏しいということかも知れません。そういう時は、霊訓をもう一度通して読み返す必要があるでしょう。一気に通して読むことによって、霊的視野を取り戻すことができるはずです。地上的視野の中に埋もれていたことに気づくはずです。自分にとって本当に大切なのは地上の事ではなかったことに思い至るでしょう。そして、自分は常に背後霊によってベストの導きを得ていることを思い出し、自分なりの心配は無用であったと、乱れた心を治めることができるでしょう。そうした霊的感覚を取り戻しさえすれば（霊主肉従の状態になれば）、すでに、この世のもろもろの障害を乗り越えるエネルギーを得ているはずです。

一気に全体を通して読むということが大切なのです。そして自分で、さっきまでの自分でなくなったと自覚できるところまで、心を高めてしまうことが重要です。地上より霊界が大切であったと実感が湧いてくるまで読み通すのです。霊的な実感まで至らないうちにやめてしまうなら、霊訓を読む意味がありません。霊的真理は霊的感性を取り戻すための（霊的生命を守るための）、生きた武器として活用すべきものなのです。どうか真理にしがみつき勇気を湧き立たせてください。

霊的真理を手にしながら、それに委ねきれず、真理は真理、自分は自分というような歩みをする人が見受けられます。それでは一体何のための真理か分かりません。自分流の考えを霊界流の考えに従わせて、はじめて霊的人生が歩み出せます。高級霊によって示された方向性は、いずれの霊訓においても明らかに一致しています。今、私達がなすべきことは、霊的真理を無条件に受け入れ実行に移すことではないでしょうか。それが本当の意味での霊的指導を受け入れることであり、謙虚な信仰心を持つことなのです。「そんなことを言ったって霊界と地上では違うから……」とか、「自分の場合は特別なケースだから……」という言葉が出るうちは、決して霊的に飛躍することはできないでしょう。自分を例外にしてはなりません。

霊的真理に委ねようとしない人は、本質的に自分が中心であり、傲慢なのではないでしょうか。人間の本当の謙虚さは、真理にひたすら従おうとする純粋な信仰姿勢の中でしか得られないものです。何か対人関係に問題が生じた時は、その原因を他に求めず、自分が考え方を変えることによって、自分が心を高くすることによって乗り越えるべきものです。

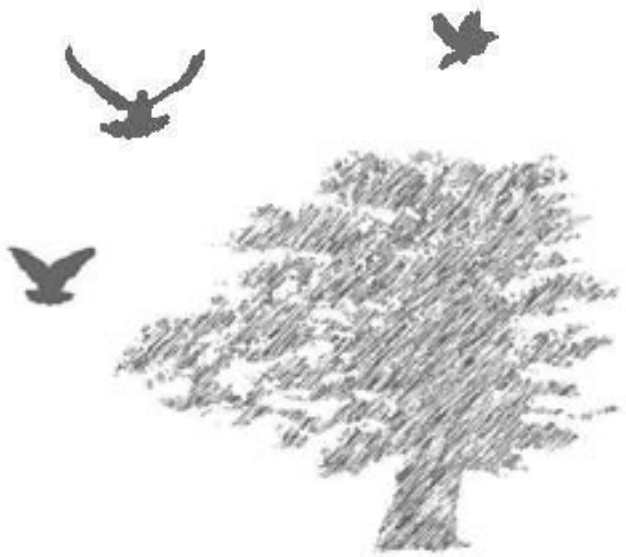
苦しみを苦しみと感じなくなる高い心境

この世の価値観にとらわれている限りは、苦しみはどこまでもついて回るようになっています。この世に対する未練が一切なくなった時、地上の苦しみを苦しみと感じなくなります。その意味で、私達は苦しい時の自分自身の心の状態を観察することによって、今自分がどのくらい霊的真理を我が物としているのか、霊的真理を体得しているのかが分かるでしょう。どのくらい霊界の人々と同じ視野（霊的視野）を持っているのかが分かるはずです。苦しみを克服するには、地上的思考をぬぐい去って霊的真理に立つことしかあり得ません。物事を霊的に眺め、霊界人と同じ考え方ができるようになってこそ、困難を困難と感じなくなります。常に上から臨めば、苦しみを小さなものに位置づけすることができるのです。これが苦しみ・困難に正しく対処するということなのです。そうしてこそ、苦難によって霊的真理の理解が実感的となり、広い霊的視野を持つことができるようになるのです。お互いにこうした心境を目指して、一歩一歩がんばろうではありませんか。

> 要するに理解が行き届かないから苦しい思いをするのです。十分な理解が行けば苦しい思いをしなくなります。また、すべきではありません
>
> それによって苦しい思いをするか否かは、あなたの進化の程度の問題です
>
> 〈シルバーバーチの霊訓・6〉

今現実に、重い障害で寝たきりの方もいらっしゃることと思います。誰からも理解されず、慰めてくれる人もいない寂しい境遇にある方もいらっしゃることでしょう。人生のどん底で、死んだ方がいいとさえ思っている方がいらっしゃるかも知れません。

しかし、どんな状況にあっても、どうか死後の世界を思い起こし、すべてを大らかに受け止めてくださることを願っています。霊的真理にすがって地上の苦しみに耐え、魂の成長の道を歩んでくださることを祈っています。



≫ スピリチュアリズム・ライブラリー ≪

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

◆スピリチュアリズム入門　(169頁)
－スピリチュアリズムが明かす－「心霊現象のメカニズム＆すばらしい死後の世界」

◆続スピリチュアリズム入門　(256頁)
－高級霊訓が明かす－「霊的真理のエッセンス＆霊的成長の道」

◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」　(297頁)
『The Mediums' Book』　アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳

◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」　(357頁)
『The Spirits' Book』　アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳

◆500に及ぶあの世からの現地報告　(437頁)
－エクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活－
『Life After Death』　ネヴィレ・ランダル著／小池 英 訳

◆マイヤースの通信ー永遠の大道（全訳）　(271頁)
『The Road to Immortality』　G・カミンズ著／近藤千雄 訳

◆霊訓（完訳・上）『The Spirit Teachings』
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳

〈今後の出版予定〉

◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方（全訳）
『Beyond Human Personality』　G・カミンズ著／近藤千雄 訳

◆シルバーバーチの霊訓（仮題）
『Teachings of Silver Birch』（全訳）　A. W. オースティン編／近藤千雄 訳

〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉

◆シルバーバーチの霊訓（仮題）『A Voice in the Wilderness』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

◆シルバーバーチの霊訓（仮題）『The Seed of Truth』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

◆シルバーバーチの霊訓（仮題）『The Spirit Speaks』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

◆霊訓（下）　『The Spirit Teachings』
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳

≫ 今回のセレクション ≪

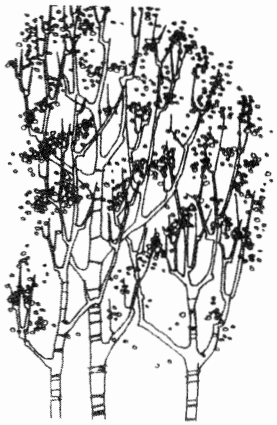
◆５００に及ぶあの世からの現地報告（Life After Death）

－エクトプラズムボックスを通して明らかにされる死の直後の実生活－

ネヴィレ・ランダル著／小池　英　訳

死の直後ならびに幽界（アストラル界）での様子を扱った霊界通信は数多くありますが、実例の豊富さ、内容の正確さなど、総合的な点で本書の右に出るものはないでしょう。これによって、死後の世界についての実感・リアリティーを手に取るように感じることができるはずです。それはまるであの世の“現地報告”そのものです。さらに本書の優れた点は、そうした実例の豊富さばかりでなく、その上に立ってスピリチュアリズムの問題点を絞り出し、検討を加えていることです。その優れた理論考察によって、哲学的内容にまで問題を深めています。その点で、スピリチュアリズムの入門書としては最適なものです。またすでに、これまで多くのスピリチュアリズムの書物にふれている方にとっても、死後の世界に対する実感を呼び戻し、何のためにスピリチュアリズムがあるのか、自分とスピリチュアリズムはどのような関係にあるのかを改めて確認させてくれるでしょう。

本書に出てくる霊媒はレスリー・フリントといい、イギリスのスピリチュアリズム界では広く名前が知られています。実はこのフリントはシルバーバーチとも対談しており、シルバーバーチにいろいろな質問をし、アドバイスを受けています。この霊界通信はレスリー・フリントという優秀な物理霊媒の存在があって、はじめて可能になったのですが、本当の立役者は、審神者（さにわ）役としてのウッズとグリーンという二人のイギリスの中年の男女なのです。二人の霊的意識の高さと誠実さ、真摯な探求心によって、高級霊からの通信を受ける地上側の完璧な準備が整いました。そしてスピリチュアリズム普及計画の一環として、高級霊の意図のもとにこの霊界通信が展開されたのです。



Spiritualism Circle
Kokoro no Dojo